

# うめきた2期地区等スマートシティモデル事業の概要 (うめきた2期地区等スマートシティ形成協議会)

## ■ 事業のセールスポイント

ターミナル立地の広大な都市公園を有するうめきた2期地区や、国際集客拠点をめざす夢洲地区において、最先端技術の導入・実証実験の実施を行いやすいグリーンフィールドとしての特性を活かし、豊富なデータの利活用を実現するプラットフォームを整備し、“事業創出”・“市民のQOL向上”・“マネジメントの高度化”に資する施策に官民の枠を超えて取り組む

## ■ 対象区域の概要

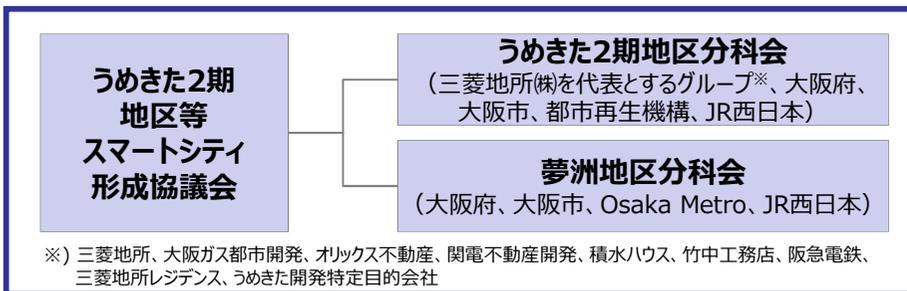
- 名称 うめきた2期地区、夢洲地区
- 所在 大阪市北区大深町ほか
- 面積 うめきた2期:約17ha  
夢洲:約225ha(万博予定地区等)
- 人口 うめきた2期地区居住約1300戸



## ■ 都市の課題と解決方法

課題	施策	目指す姿
高齢化社会に対応した、きめ細かな都市内モビリティ確保	<b>都市内モビリティ</b> ・ラストワンマイルの移動快適性やまちの回遊性の向上に向け、自動運転バスやパーソナルモビリティの導入・実用化を行う	将来的に公道等も含めた運用も見据えつつ、市民のストレスフリーな都市移動と、渋滞緩和・人材確保等の課題解決の実現を目指す。
施設の長寿命化、人材不足	<b>先進的な維持管理・運営</b> ・AI等の最先端技術を導入し、まちの維持管理・運営の省コスト化を図る ・またロボット等導入により、省人・省コスト化が可能な管理運営手法を導入する	先進技術や収集データをもとに効率化・最適化され、利用者の声も積極的に取り込むことで高度化された、新しい維持管理・運営モデルの構築を目指す。
地球温暖化対策に係る社会的要請、巨大地震、パンデミック等有事への対応	<b>環境・防災対策</b> ・まちの状況を可視化によるエビデンスベースでの環境・防災施策を導入する ・ポストコロナを見据えた、ロボットによる有事の非接触型の業務を実現する	新しい低炭素モデルのショーケースを目指す。有事の際は、迅速かつロボット等を活用した避難誘導を実現を目指す。
市民のQOL向上による「関わり続けたい」まちづくり、イノベーションによる関西経済の浮揚	<b>ヒューマンデータの利活用</b> ・ヒューマンデータを収集し、市民のQOL向上や事業創出につなげる仕組の構築を図る	市民からの消費者としての声やヒューマンデータの提供を通じ、生活者視点に基づく事業創出、市民のQOL向上の促進を目指す。また、市民が新製品・サービス開発に積極参画するまちの実現を目指す。
	<b>まちの貢献ポイントの導入</b> ・市民のQOL向上と地域活性化に向けて、「まちの貢献ポイント」の導入を図ることにより、市民のまちの活動への積極参画を促進する	

## ■ 運営体制



## ■ KPI(目標)

<b>集客効率</b>	➢ 人流データを使わない場合と比べ、人流データ活用により <b>2倍以上</b> の効率で集客を実現する。
<b>貢献活動数</b>	➢ アプリを通じた「貢献」に資する活動実績 <b>1000件以上</b>

## ■ 本実行計画の概要

エリア価値の向上と高効率な維持管理・運営を実現するため、提案地区では、「都市内モビリティ」「先進的な維持管理・運営」「環境・防災対策」「ヒューマンデータの利活用」「まちの貢献ポイントの導入」の5つの施策に取り組む

事業創出

市民のQOL向上

マネジメント高度化

### うめきた2期地区

ターミナル駅への隣接性や巨大な「みどり」を活かした先進的・将来的・汎用的なスマートシティ施策

### 夢洲地区

国際集客拠点化に向け、最先端技術を活用した円滑で快適なモビリティの実現

### 環境・防災対策

帯水層蓄熱等の先端技術を活用した、効率的なエネルギー管理を目指す。また、行政と連携した防災情報発信を実現する

### 先進的な維持管理・運営

AI・ロボット等の最先端技術を導入し、まちの維持管理・運営の効率化を図る

### 都市内モビリティ

ラストワンマイルの移動快適性やまちの回遊性の向上に向け、パーソナルモビリティ・自動運転バス等の導入を図る

### まちの貢献ポイントの導入

市民のQOL向上と地域活性化に向けて、「まちの貢献ポイント」の導入を図ることにより、市民のまちの活動への積極参画を促進する

### ヒューマンデータの利活用

ヒューマンデータを収集し、市民のQOL向上や事業創出につなげる仕組みの構築を図る



# これまで実施した実証実験の概要： うめきた2期地区等スマートシティモデル事業

- 街づくりやエリアマネジメントの高度化において必要不可欠な「人流」を収集・活用し、具体的なユースケースでの活用有効性を協議することで、事業への有効性を確認・検証する。
- 市民の地域貢献活動等に対する「貢献ポイント」の付与・運用を試行的に実施し、利用者の行動変容実態を評価することにより有効性を確認・検証する。

## ■ 実証実験の内容

本実証では、市民のQOL向上、地域活性化を実現するまちの持続的運営を見据え、様々な事業者における位置情報活用の有効性や「貢献ポイント」の有効性検証を行う。

(市民向けの提供サービスの高度化や事業創出、運営の効率化等の観点)

行動情報等を用いた高度なエリアマネジメントの実現  
及び継続的なビジネスモデル確立に向けた検証

### ① 人流の可視化・利活用検討

高精細な人流データ収集  
(IoTセンサー、GPS)

#### 分析・可視化

来訪者理解      施設人流理解

- 人数×属性分布
- 居住地・勤務地
- 行動特性 等
- 混雑
- 回遊
- 来訪交通手段

#### 関連事業者との有効性協議

- 施設運営者
- エリマネ団体
- 商業テナント
- その他 (行政等)

### ② 行動変容施策と効果の検証

貢献ポイントによる施策展開



- アプリ配布
- 「貢献」活動参加によるポイント付与
- ボランティア
  - イベント参加
  - 健康増進活動 等
  - 来街者
  - 就労者

#### 効果検証

各種活動データ      ポイントの交換可否等による効果検証

## ■ 実証実験で得られた成果・知見

### ① 人流の可視化・利活用検討

エリアの人流可視化

人の量や属性分布、流れ等を可視化。施設運営・防災・エリマネ等の観点での活用可能性を確認

建物内の人流可視化

イベントへの集客及び来訪者可視化

人流活用により効果的な集客を実現 (約6倍の費用対効果)、高度なエリマネへの寄与が期待される

### ② 行動変容施策と効果の検証

ポイント付与による行動変容効果

・SDGsアクション等の活動を誘発 (延べ1475件)  
・SDGsを意識して「活動することが習慣になった」「活動する機会が増えた」が7割以上



ポイント利用先の汎用性の違いによる行動変容効果

・汎用性の高い外部ポイントの導入により、活動量、利用ともに増加 (ポイント付与件数1.7倍、ポイント利用件数1.3倍)  
・ポイントを組み合わせ合わせた適正な水準モデルを構築することでポイント原資の負担を軽減させる可能性

フェーズ毎の1人当たりポイント付与件数

1人当たりポイント付与件数	総計	フェーズ2 11/21-12/18 (N=305)	フェーズ3 12/19-1/31 (N=205)	フェーズ3/フェーズ2
ポイント付与(チャージ) 件数	3.54	2.23	3.88	1.74
新規登録特典・アンケート回答	1.37	1.10	1.14	1.03
歩数チャレンジ達成	1.29	0.53	1.84	3.44
SDGsアクションへの参加	0.88	0.59	0.91	1.55

本実証で得られた様々な課題に対し、仕組みや運用など様々な方策での課題解消策・改善策を検討することで、社会実装に向けた実現イメージを具体化する。  
また、仕組みや運用面のみならず、ビジネスモデルの確立可否も、今後の重要な検証ポイントとなる。

### ■ 実証実験で得られた課題

#### ① 人流データ活用に関する課題

人流データの更なる高度活用に向け主に以下の課題が得られた

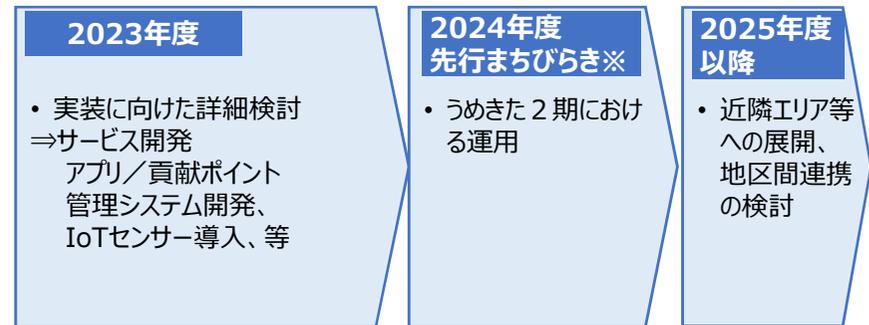
- 1. 業務への落とし込み：**人流データの可視化に止まらず、活用につなげていくには、日々の業務内での利用シーンづくりが必要。
- 2. 街アプリによる購買データ等との連携：**来街者向けの街アプリの展開により、行動と購買の組合せによる深い顧客理解や行動変容の促進が可能となる。
- 3. 予測・シミュレーションの実現：**実態の理解に止まらず、人流の予測や施策実行時のシミュレーションまで構築できると、活用の幅が大幅に広がると考えられる。
- 4. ビジネスモデルの構築：**データの収集・分析にかかるコストを受益者が負担していくようなビジネスモデルの構築が必要。

#### ② 貢献ポイント活用に関する課題

- 1. ユーザー獲得：**  
・ポイント獲得に加えて、ポイント利用先に対するインセンティブも必要。
- 2. ポイント付与方法：**  
・スタッフ確認が必要な活動は心理的ハードルが高くなる可能性。  
・屋外ではポイント端末設置には天候等の配慮が必要。
- 3. 提供するアクション内容：**  
・利用促進には事前準備なく参加可能な活動を増やすことが必要。
- 4. 原資負担のあり方：**  
・ポイント利用先やポイントへの感度について今後も検証が必要。

### ■ 今後の取組：スケジュール

(※全体開業：2027年度)



#### R4年度実証結果を踏まえた今後の主な検討事項

- ・ R4年度の実証においては、人流によるエリア・施設来訪者の理解、及び様々な手法による行動変容の誘発に関する取り組みを実施。
- ・ それぞれの領域で一定の成果を得ることができたが、2024年度の街びらきに向けた実装判断においては、個々の「技術」の実装有無を単体で判断するのではなく、居住者・勤務者・来街者・商業テナント等、様々なステークホルダーにとって、より魅力的な「サービス」として何が必要か？を軸に検討を進めることとなる。
- ・ そのため、過年度で実証済みの成果を組合せ、どのように街の価値を高めていくかを検討していくこととなる。